プレスリリース（資料配付）

平成２８年１０月

国立研究開発法人　森林総合研究所四国支所

森林総合研究所四国支所　公開講演会

林業へのシカ被害対策を考える

・再造林地におけるシカ対策について議論を深める。
・給餌誘因による狙撃、囲い罠などの捕獲事例を紹介し、再造林地におけるシカ捕獲の課題について考える。
・被害を受けにくい防護柵の仕様や管理方法について考える。

概要

人工林の蓄積が充実し、大型製材工場やバイオマス発電所の稼働が相次ぐ中、四国では皆伐・再造林が加速すると予想されます。

しかし、ニホンジカによる苗木被害は再造林を進める上で大きな障壁となり、実効性のあるシカ対策を確立することが喫緊の課題です。そこで森林総合研究所は、徳島県、高知県、および高知大学と共同で、研究プロジェクト「ニホンジカ生息地におけるスギ・ヒノキ再造林手法の開発」を平成26年から始めました。シカ対策には個体数調整（捕獲）と物理的防除（防護柵など）があります。本プロジェクトではこれらを車の両輪と考え、捕獲については再造林地に出没するシカを集中的に捕獲し、苗木への被害軽減効果を検証しました。

また、防護柵については実際に設置されている防護柵を多数調査して、柵を有効に機能させる条件を検討しました。それぞれの研究課題について一定の成果があがっていますが、課題も多く残されています。この公開講演会において、本プロジェクトの成果を林業事業者や森林管理者と共有することによって、林業におけるシカ問題を解決する糸口を探りたいと思います。

当日は是非取材にお越しいただき、紙（誌）面、番組等でご紹介いただきますよう、よろしくお願いいたします。

◎詳細は別紙チラシをご覧下さい。

問い合わせ

国立研究開発法人　森林総合研究所四国支所　支所長　原田　寿郎
広報担当部署：森林総合研究所四国支所　地域連携推進室
Tel：088-844-1121（代）　Fax：088-844-1130
Email：koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp

この資料は、高知県政記者クラブへ配布しています。

Forestry and Forest Products Research Institute